

第3学年 ホームルーム活動（人権）学習指導案

1 主 題 就職差別について

2 主題設定の理由（省略）

3 ね ら い

「就職差別につながるとされる14項目」の制定された背景を通して、公正な選考の大切さを理解させるとともに、不合理な差別に立ち向かっていこうとする態度を養う。

4 指 導 計 画

（1）これまでの学習

同和問題（同対審答申）・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

多様な性のあり方・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

（2）本時の学習

就職差別について・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

（3）これからの学習

災害時における人権問題（講演会）・・・・・・・・・・1時間

アイヌの人々・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

1年間の振り返り・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

5 本 時 の 学 習

（1）目 標

- ① 「就職差別につながるとされる14項目」を理解させ、公正な選考に向けて差別を見抜く力を養う。
- ② 「就職差別につながるとされる14項目」は、自分だけでなく他者の人権を守ることにもつながることに気付かせる。
- ③ 就職差別を解消するために、行動しようとする意欲を高める。

- （2）普遍的な学習のテーマ・・・・・・・・基本的人権の尊重、法の下での平等、個人の尊厳
個人人権課題名・・・・・・・・同和問題

(3) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	○「就職差別につながる」とされる14項目の事前アンケートを確認し、本時の目標を理解する。	○アンケート結果から「就職差別につながる」とされる14項目の認知度を示し、本時の方向付けをする。	
展開 (40分)	<p>○グループで「就職差別につながる」とされる14項目の内容について知り、公正な選考の重要性について理解する。</p> <p>○グループで「就職差別につながる」とされる14項目に抵触する質問を見抜き、理由を考える。</p> <p>○ロールプレイを通して、面接時、差別選考に直面した場合、どのように対応したらよい^いか考える。</p>	<p>○「就職差別につながる」とされる14項目が作成された背景を伝える。</p> <p>○各班でどの質問が就職差別につながるのかを考えさせる。</p> <p>○自信をもって面接に臨み、能力・適正に関係のない質問には適切な対応ができるようにさせる。</p>	<p>○「就職差別につながる14項目」について知り、公正な選考に向けて差別を見抜くことができたか。 (技能的側面)</p> <p>○自分だけでなく、他者の人権を守ることにつながることを理解することができたか。 (知識的側面)</p>
まとめ (5分)	○本時のまとめを聞き、就職差別を解消するためにどのように行動すべきかをシートに書く。	○本時の内容を振り返らせ、差別解消に向けて行動することの大切さを伝える。	○就職差別を解消するために行動しようとする意欲が高まったか。 (価値的・態度的側面)